

ひいおばあちゃんのしょうじょう

金 賞 植田小学校 3年 山崎 和花

「ひいおばあちゃん、そこにかざってある大きなしょうじょうは、だれのしょうじょう?。」

「長い間こうつう事をおこさなかったからけいさつしょからもらったひいおばあちゃんのしょうじょうだよ。」

「えっ、ひいおばあちゃん運てん出来たの!。」

わたしはとてもおどろいた。八十二才のひいおばあちゃんが運てんしているすがたを見たこともなかったからだ。

「もう、めんきょへのうしたから運てんはできないよ。」

「えっ、へのうって何?」

ひいおばあちゃんは、めんきょへのうをくわしくわたしにおしえてくれた。運てんがあぶなくなったら自分で運てんめんきょしょうをけいさつしょにかえすことだそう。

「でも、ひいおばあちゃんはしょうじょうをもらえるくらい運てんがじょうずだったのになんでめんきょへのうしたの?。」

「車の運てんは、し力、ちょう力そして手足を使うむずかしいことだから何かが一つたりなくても大きな事につながるからよ。年をとるとみんな、少しずつたりなくなっていくのよ。」

ひいおばあちゃんは、少しさみしそうな顔をしてそういった。

わたしは家に帰ってからめんきょへのうについて考えた。ひいおばあちゃんの家近くには、えきもバスでもない。スーパーもびょういんも歩いてはいけない。ひいおばあちゃんだけではなくて同じようならう人はたくさんいると思う。ひいおばあちゃんは家族が車を運てんしてあげられるけどそうじゃない人もいるだろうと思うとめんきょへのうはとてもむずかしいことだと思った。

わたしもいつか大人になってめんきょをとり車を運てんすると思う。もっと時間がたってわたしもおばあちゃんになった時、ひいおばあちゃんから教えてもらった言葉を思い出し早めにめんきょへのうをしたいと思った。

わたしはお母さんにとても大きな画用紙を買ってもらった。けいさつしょからもらった物より大きなしょうじょうをひいおばあちゃんにプレゼントするためだ。

次の買い物の日にりっぱながくに入れてひいおばあちゃんにわたすと、とてもよろこんでけいさつしょのしょうじょうのとなりにかざってくれた。

「これからもひいおばあちゃんの行きたいところに一しょに行こうね。」

と言うと、ひいおばあちゃんはわたしを見つめて

「ありがとう」

と言った。